

牧羊ひろば



垂水教会

幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのようなる国である。

マルコ10・14

●垂水教会は、一九三〇年（昭和五年）に日本伝道隊御影聖書学舎が垂水区塩屋に移り、伝道が開始されました。今日まで、歴代牧師の精神を受け継ぎ、伝道と教会音楽に励み、主に仕えています。

教会学校の働きについてですが、次代を担う子ども達への信仰継承のため、長期方針を掲げて、取り組んできました。1. 生徒を受洗にまで導き、その後の信仰生活の助けをする。2.

大人の礼拝に導く。3. 生徒が教会の一員（二十一世紀の垂水教会を背負う）としての自覚を持つまで導く。4. 小学校（分校を含む）から中学校へ確実に導く。5. 生徒を通して家族への伝道です。これから教会学校の活動内容を紹介させて

いただきます。

●教会学校（本校）

毎週、八時四五分から一〇時まで、幼稚科・小学校・中高校と三区分にして、垂水教会で礼拝をしています。教師は教職二名、信徒教師七名です。礼拝は、ピアノで奏楽をして、OH P（オーバーヘッドプロジェクト）を用いてスクリーンに歌詞を映写します。礼拝は前奏、賛美、主の祈り、交読文、メッセージ、献金、お祈りの典型的な進め方です。献金は、子どもたちに献金袋を持たせ、彼らが献金感謝のお祈りをささげます。祈りの言葉が出ない時は、教師が先に祈ってあげて、生徒はそれに従って、お祈りをささげます。お祈りのささげ方を覚えて、人前で祈る習慣を身に付けるための訓練にもなっています。礼拝後は分級を行い、小学校は三グループ（小学一〜二年、三〜四年、五〜六年）に別れて進めます。小学校担当の教師は、生徒たちとメッセージの分かち合いや子供たちの一週間の出来事などを聞いたりして、親交を深め、信仰のケアにあたります。月に一度、礼拝後に教師会が開かれるので、その時に、各分級担当の教師は子ども達の様子を報告し、子どもたちの信仰や生活の状況を共有し合い、意見を集

結させて、さらに効果的な働きができるように努めます。

分級の進め方は牧羊者のワークに沿って行います。大半の生徒は片親か祖父母のどちらかがクリスマスチャンですが、両親が全く礼拝に出席してなくても、教会学校にきている子どもも少数ですがいます。

中・高等科の礼拝順序は小学科とほとんど変わりませんが、ギターを用いて、ワーシップソングを歌います。礼拝後は椅子の配置を替えて、みんなで輪になり交わりと祈りの時をもちます。礼拝のメッセージについて分かち合ったり、近況報告をし合って、主にある親交を深めるように努めています。また高校を卒業したら、教会学校から大人の礼拝に移るので、中・高等科の教師は橋渡しの役割として責任を自覚しつつ、聖霊の助けと御言葉に委ねて、奉仕をしています。

●分校

私たちの教会は、分校を三ヶ所で行っています。二年前に



C S本校クリスマス

は男子高校生が自ら礼拝に出席するようになり、クリスマスに洗礼を受けました。教会に導かれたきっかけになったのは、小学生の時に分校に来ていたからです。その時は教会を挙げて、分校の働きの重要性を再確認し、救いの喜びに浸りました。

I. 大町分校

毎週水曜日、午後三時三〇分から四時三〇分まで、教会近くの幼稚園の一室を借りて行っています。担当は教職の伝道師です。幼稚園の前園長が熱心なクリスマスチャンだったことで、昔から会場を提供してくださり、長年にわたって分校の働きが継続されてきました。幼稚園の隣には小学校があり、分校に行ったことのある卒園した子ども達はほぼ全員、その小学校に入学します。分校の会場が公共の幼稚園ということも相まって、小学生たちが分校に集まってきました。

大町分校のプログラムはI部が礼拝、教職がギターを弾いて、前奏、賛美、主の祈り、交読文、賛美、紙芝居を用いたメッセージ、お祈り、賛美、最後にワークをしています。その後は、室内でゲームをしたり、外のグラウンドでボール遊びをしたり、かけっこや鬼ごっこ等で一緒に遊びます。今、参

加している子ども達は、男の子なのでサッカーやキャッチボールを大人と遊べるのが楽しみのようです。低学年の時から何年もほぼ毎週、分校にきてくれる高学年の子ども達は、教会に対する理解や信頼もあり、時々、友達を連れてきてくれます。また春や秋に催される垂水教会での子ども大会にも積極的に参加してくれれます。

II. 上高丸分校

毎週土曜日、午後三時から四時まで、近くの市営集合団地の中庭で行っています。一人の姉妹が二十年以上も同じ場所で、働きを続けています。分校の進め方は大町分校と同じです。今は数年間ほぼ毎週出席してくれる生徒がいます。二年前に、この分校出身の男子高校生が洗礼を受けました。

III. 滑(なめら)分校

毎週水曜日、午後三時から四時まで、近くの公園で行っています。上高丸分校と同じ姉妹が長年担当しています。進め方は前項と同じです。他の分校とは違い、足を運んでくれる子どもは毎回変わります。天候の悪い時や学校で行事があれば、公園に子どもがおらず、生徒数がゼロの時もありますが、

倦まず弛まず働きを続けています。

分校の課題は、生徒たちの両親が未信者なので中学に進学してから本校の教会学校につながるのが難しいことです。「あなたのパンを水の上に投げよ、多くの日の後、あなたはそれを得るからである」(伝道11・1)のみ言葉を実感させられる働きではありませんが、「御言には、あなたがたのたましいを救う力がある」(ヤコブ1・21)という真理を信じて、聖霊の助けによって御言葉を宣べ伝える働きを継続していきます。

●特別行事

定期集会以外の教会学校の特別行事を紹介いたします。四月・教区CS研修会 五月・母の日、研修 六月・花の日、交番、消防署に花束を届ける。幼・小学科子ども大会 七月・夏期の行事の準備、幼稚科夏期学校(未就児対象)、これは土曜日の午前前から教会に集まり、紙芝居、メッセージ、ゲーム、昼食、工作などを行う日 帰りの行事 八月・教区中高科パイブルキャンプ 九月・牧師より研修



CS幼稚科一日夏期学校

一〇月・牧師より研修 十一月・牧師より研修 十二月・幼小中高クリスマス祝会 一月・牧師より研修 二月・牧師より研修 三月・進級卒業式

●小学科サマーキャンプ(二泊三日)

一日目：午前はキャンプ施設へ移動、オリエンテーション、午後は賛美タイム、開会礼拝、分級、おやつ、自由時間、おふる、夕食、映画会、就寝

二日目：午前六時起床、朝のお祈り、ラジオ体操、朝食、そうじ、賛美タイム、礼拝、分級、ハイキング出発、午後・キャンプ場帰着、おやつ、自由時間、おふる、夕食、賛美とお話、キャンプファイヤー、就寝

三日目：午前六時起床、朝の祈り、ラジオ体操、朝食、そうじ、賛美タイム、開会礼拝、分級、午後・昼食、キャンプ場出発、垂水教会に到着して解散

●幼・小学科子ども大会(六月・十月)

春と秋に子ども大会を開いています。時間は土曜日午後二



C S 幼小科クリスマス祝会

時から四時です。毎回の子ども大会でメインの食べ物を用意します。六月はアイスクリーム、その他、ポップコーン、綿菓子などです。トラクトにこれらのメインの食べ物大きく載せて、子ども達にアピールします。大会の一週間前には、近所の二つの小学校正門前で、登校時に数名でトラクト配布を行っているのです。何十年も前から継続している働きですので、小学校の先生たちも何ら抵抗なくトラクト配布を許可してくれま

す。近年は昔に比べて、子どもがトラクトを取ってくれる確率が顕著に低くなりました。それでも事前の案内配布によって、毎回の大会に普段教会学校に來ない五名前後の子ども達が参加してくれます。子ども大会のプログラムは一部が礼拝、二部がゲーム大会です。一部の奉仕者は司会者、ピアノ奏樂者、メッセンジャーがたてられ、時間は三十分程度です。プログラムは



秋のこども大会・ポップコーン



C S 秋のこども大会

黙とう、賛美、お祈り、賛美、暗唱聖句、メッセージ、お祈りで終わります。

二部のゲーム大会では、各部屋にそれぞれ違ったゲームを用意して、各ゲーム担当のCS教師たちが割り当てられ、子ども達が自由に各部屋を回って、ゲームを楽しみます。子ども達に一枚のカードを渡し、一つのゲームが済んだら、そのスタンプをもらい、全部のゲームが済んだら、ゲームが終わる仕組みです。ゲームは外の玄関前で水風船釣り、輪投げ、工作、暗唱聖句などです。子ども達が頭を使ったり、指先を集中させたり、想像力を働かせたりして五感を働かせ刺激させて、飽きないように努めています。ゲームが終わると、机や椅子を食事に配列して最後に夏ならアイス、またはお菓子をジュースを飲食して、牧師の挨拶と教会学校の案内を行い、最後の祈りをもって、子ども大会が閉じられます。

●子どもクリスマス

十二月の第三土曜日、午後二時から四時まで行いますプログラムは、春と秋の子ども大会がベースです。垂水教会の子ども大会は、毎年土曜日で同じ時間帯ですので、近隣の子ども達にある程度は認知されています。

子どもクリスマスは普通の子ども大会とは違い、普段本校の礼拝に出席している子ども達が、前々から練習してきた降誕劇または人形劇を披露します。劇が終わる、盛り上がったところでCS教師がサンタの衣装を着て、子ども達の前に現れ、子ども達の興奮が最高潮に達します。しばしサンタと子どもたちの問答が繰り返された後、サンタは退場して、教会学校本校の表彰式が始まります。最後に校長である牧師が閉会のお祈りをささげ、本校の教会学校の案内をして、解散という流れです。

近年は宗教に対する偏見や子どもたちの習い事などが増えて、本校や分校、子ども大会の参加人数は減少傾向にあります。けれども、素直な心をもった若い時に、教会に来て、福音にふれてくれれば、将来ふとしたことで教会へ足を運びやすいのは明快です。

全国の教会学校が祝福され、聖霊が働かれて、子ども達が教会へ行って救われ、信仰継承がスムーズになされていくことを願っています。「あなたの若い日に、あなたの造り主を覚えよ」(伝道12・1)の聖句が、近隣の多くの子ども達に実現されるように祈り、主のみわざに期待して進んでいきます。